

病院だより

ガイアの季節

2012

第7号

平成24年1月17日発行



医療法人 伴帥会

愛野記念病院

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲3838-1
TEL (0957) 36-0015 FAX (0957) 36-1027

ホームページ <http://www.ainomhp.jp/>

・介護老人保健施設「ガイアの里」・ケアマネジメントセンター・愛の訪問看護ステーション・グループホーム「椿高野」・愛野健康センター

明けましておめでとうございます

院長 古賀 宏 延

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

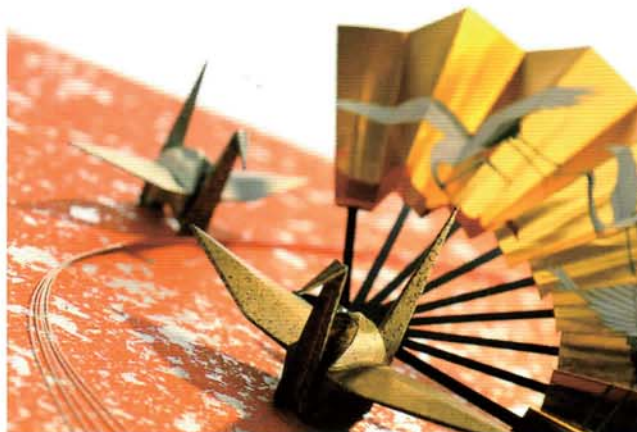
日頃より当院に一方ならぬご指導ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私が平成23年4月より、貝田現理事長の後を継いで院長に就任して以来、早10ヶ月が経とうとしております。その間、内科全体を臓器別に再編し、より専門性の高い診療体制を作るとともに、地域の先生方との連携を強化すべく活動して参りました。その結果、先生方からは数多くの患者様をご紹介頂き、当院での急性期治療が終了した後は、再び先生方へ逆紹介申し上げるべく、日々努力しているところであります。

皆様もご存知の通り新病院建設も順調にすすみ、今年夏には完成予定となりました。病棟につきましては、すべて一般病床（ハイケアユニット8床、亜急性期病床を含）となり、療養病床はすべて廃止となります。さらに、CT、MRI、心カテ装置など、高度の医療機器を備え、より急性期医療に適した施設に生まれ変わろうとしております。先生方におかれましては、これらの機器を気軽に活用して頂けますよう、検査体制をオープンにしたいと考えております。

一方、以前より外来診療の待ち時間が長いなどのご不便をおかけしましたが、昨年10月より整形外来においても、再診患者様には予約制を導入いたしました。なお、新患の患者さまにつきましては、従来通りいつでも受診できますので、お気軽にご紹介頂ければ幸いに存じます。

日本の医療体制の大きな変化に伴い、病院の機能分化の重要性が注目されるようになりました。地域内における病院の役割を明確化し、それぞれの病院が役割をもち、連携しながら、ひとりの患者さまを地域全体で支えるという、地域完結型医療へと転換されている中、今まで以上に地域における当院の役割を認識し、地域医療の充実に努力していきたいと考えております。



基本理念

- 一、私たちは患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 一、私たちは保険・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。

関節リウマチ

整形外科医師 宮崎 洋一

関節リウマチとは、体の多くの関節に炎症が起こり、関節が腫れて痛む病気です。長期間にわたって進行すると、関節の破壊と機能障害が起こります。関節以外の臓器にも症状が起こることがあり、時に命にかかわることがあります。いまだはっきりした原因は不明であり、以前は有功な治療法が少なく治療が困難でしたが、最近新しい薬剤の登場など病気の進行を止めることもできるようになりました。そのため、2002年、日本リウマチ学会では、病気の名称を「慢性関節リウマチ」から「慢性」を外して「関節リウマチ」に変更しています。現在関節リウマチに対する治療はメソトレキサートという内服薬が中心であり、効果が十分でない場合は生物製剤という注射薬が5種類使用できます。生物製剤は有効性が高い薬剤で、発症早期から使用することで関節リウマチの進行を止めることができる可能性があります。一方で副作用のリスクもありますので、使用に際しては十分な検査と定期的な診察が必要です。大事なことは関節破壊が進行する前に有功な治療を開始し、機能障害を起こさない様にすることです。手や足などの関節が腫れて痛む、朝から手がこわばるなどの症状がある場合は、早めに専門医の診察を受けてください。

不幸にして関節が破壊、変形した場合、薬やリハビリでもとに戻すことはできません。機能障害や痛みが強い場合は手術が必要になります。また、手関節の変形のため手指の腱が切れて、指が伸びなくなることがあります。こうした障害も手術で治すことができます。

関節の痛み、変形、動きの悪さなどで困っている方、指の動きが悪くなり不自由な方は、外来で御相談ください。



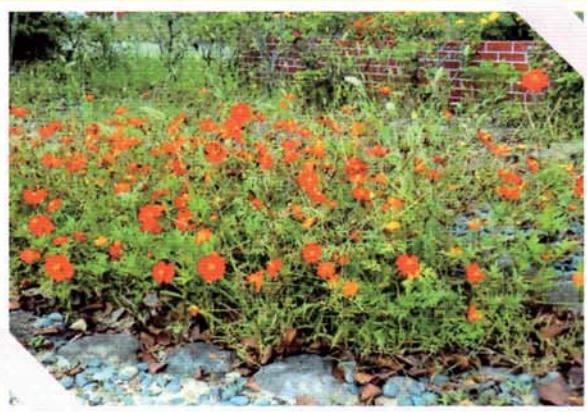
さるこう会について

看護師 高山 美樹

愛野記念病院では、65歳以上の患者数の増加と、平成17年には寝たきり患者が全体の約7%に及んだことから、同年5月より寝たきり防止委員会を立ち上げ、医師、看護部長、看護師長、各病棟看護師、看護助手、理学療法士が集って、活動を行ってきました。

現在は、「歩いて回る」の長崎の方言「さるく」より、さるこう会委員会と名を変えて、週に2回(火曜日と木曜日)1時間程度ホールに集まり、季節行事や、生け花、作業などを行っています。

天候の良い日は歩けない方も気分転換になるよう車椅子を使って外に散歩に出かけること等も企画します。



コスモスがきれいでした

寝たきりになると、体の筋力が落ちたり、様々な病気を引き起こしやすくなり、在宅生活が困難になって長期にわたり入院することにもなりかねません。

寝たきりゼロを目標に、今後も患者さんたちに喜んでもらえるような企画を委員会で考え、実行していきたいと思っています。



到着!サルビアも咲いていました

昨年は10月にコスモスを見に行こうと企画し、森山の方に散策に出かけました。

コスモスはあまり咲いていなかったのですが、サルビアなどの色鮮やかな花や様々な植物にふれて、患者様にとっては病室にはない風を感じて、良い気分転換になったようです。

「連れてきてくれてありがとう」という言葉と素敵な笑顔が何よりでした。



全員揃ってハイチーズ!

【糖尿病教室】

愛のウォーキング開催について

看護師長 小 橋 和 美

愛野記念病院で糖尿病教室の公開講座を昨年11月3日に「秋を探そう愛のウォーキング」をスローガンに開催しました。午前10時集合、まず参加者の方の健康チェックを行いました。「血糖76mg / dl、少し低いですね。御気分は悪くないですか」と頑張り屋のAさんは、看護師の問いに「家から1キロばかり歩いてきたけん、少しフラットするばい」…早くも低血糖。「ブドウ糖!! ブドウ糖!!」とこの様な感じで始まりました。



ウォーキング前の健康チェック

健康チェックの後、古賀院長のあいさつで始まり、リハビリ部による歩き方の指導と、健康体操。その後お楽しみの昼食は栄養部で手作りのお弁当でした。副食の量はみな同じですが、糖尿病患者さんには必要カロリーによっておにぎりの数が違っていました。



軽い坂が心地よい負荷となっていました

午後1時からメインであるウォーキングがスタート。コースは30分と1時間の2コースに参加者に選んでもらいました。総勢31名での愛の路を探索しながらコスモス、柿、栗と秋を感じながら歩きました。途中看護助手手作りの“愛のウォーキング”のイラスト付きゼッケンに魅かれて、沿道から飛び入り参加者のハプニングもある中で全員無事ゴール出来ました。



無事到着後全員達成感の笑顔、血糖値も全員正常値へ

参加者の方は日頃からウォーキングされていて、心地よい汗を流せたようでした。協力スタッフからは日頃の運動不足が発覚、悲鳴にも似た声が聞こえてきました。最後は看護部長のあいさつで無事教室を終了できました。又今年も歩きますよ。



Let's Love ♥ Walking

第11回 ガイアの里秋祭り開催

昨年10/1(土)雨上がり
の秋空の下、15:00～
16:30まで当施設中庭にて「第11
回ガイアの里秋祭り」を開催いたしました。当
日、入所・通所利用者の方は、出し物を見たり
聞いたりする中で手拍子をしたり声を出して、
「一年に一度で楽しみにしていた。出し物を見
て元気になった。」などといった喜びの声も聞
かれました。



くじの当選発表！

通所利用者の家族の方からは「今回祭りに参
加してにぎわいを感じ、一人ひとりに対する職
員の温かい言葉（笑顔）に、なかなか家ではで
きていない、いつも怒っているような自分の態
度に反省した、優しくしないといけない。」と
いった言葉等々頂けたことは今回祭りを開催し
てよかったと思えた瞬間でもありました。



ガイアのこっこでしょ！



琉球太鼓にスタッフも参加しました！

又、多くの業者の方の参加により、スムーズ
に露店等進めることができました。今回は例年
に比べ祭り経験者も多かったことや、実行委員
会を立ち上げて週1回皆で意見を出し合い、一
人ひとり何をしたら良いかを考えたことでしっ
かりとした声掛けができ無事に終わることがで
きたと思います。何かをする時には個々では出
来ません、皆が協力をして出来ることです。当
たり前な事ではありますが今回は、それを改めて
多くの職員が感じる事が出来たと思います。
これを業務に活かしていくとともに、入所・通
所利用者の方・家族・地域の方を支え、もっと
信頼ある施設となるよう日々努力してまいりま
す。

介護老人保健施設 ガイアの里

言語聴覚士の小児リハビリについて

言語聴覚士 出田 直子

平成17年度、発達障害者支援法が施行され、発達障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など）の早期発見や福祉的援助の取り組みが始まりました。

当院でも3年前より小児の言語訓練を開始し、現在14名のお子さんが訓練に通われています。対象となるお子さんは発達障害、構音障害やことばの発達が気になる方などです。

院内における言語訓練以外に保育園・幼稚園・学校訪問も行っており、地域の療育関係機関同士の連携を図っています。また、県南保健所乳幼児発達専門相談事業のこども発達相談にも従事し、言語検査の実施や助言、指導等を行っています。

今後もお子さんのより良い発達をサポートしていきたいと思っています。

（注：ここで記している発達障害とは、発達障害支援法に基づく疾患を指します。）



災害支援ナースとして活動して

内科外来看護師 森 本 敏 弘

東日本大震災発生当日、長崎県災害支援ナースとして登録していた私が愛野記念病院でたまたま災害看護について勉強会を計画しておりました。まさかその日にこの様な大災害が起こることは微塵だに予想していませんでした。今回のような大震災で広域にわたる場合は、登録していた私は派遣依頼が来ることを覚悟して心の準備はしていました。

派遣依頼が3月26日に入り、4月1日から4日までの第23班の一員として活動してきました。装備品の準備・確認は災害支援のマニュアルに沿って、基本である最低限自己完結型の準備をしました。その内訳は、身分証明証・健康保険証のコピー・現地のマップ・携帯電話・シュラフ・断熱シート・ネックウォーマー・常備薬・ポケットマスク・食糧・水等です。出発前に、理事長から、『当院としてはもっと多くの支援隊を送りたいところだが現実には難しい、病院代表としても元気でしっかり頑張ってきてくれ』、と励ましの言葉と病院としての見送りを受けました。



湊小学校周囲の状況

3月31日午後長崎県看護センター、長崎空港を出発し東京にある日本看護協会に到着しました。翌早朝緊張で張りつめた状態のまま起床。当時は震災3週目で仙台空港及び東北新幹線閉鎖の状態であったため、岩手班10名、宮城班19名計29名はバスで高速道路を使用し12時間をかけ現地を目指すこととなりました。私が派遣

先の宮城県石巻市立湊小学校に到着したのは日没後であり、電気の光もなく真っ暗な状態の中、校庭を踏みしめた感触は運動場でなく砂浜を歩くような異様な感触であったことも今でも鮮明に覚えています。



避難所内の活動拠点

湊小学校は震災当日あの時刻は帰宅するため全校生徒が校庭に集まり点呼をとっていたところ、津波が押し寄せてきて、120名の生徒さんの7割、教職員の3分2の尊い命が奪われた所です。想像するだけでも正直恐怖で身が震えました。しかし体育館には300数名の、想像を絶する恐怖の体験をされた方々が避難して生活をしておられるのだ、逃げ出せない、自分の果たすべき役割を全力注いでやらなければと決意しました。湊小学校はマスコミ報道があるまで3日間孤立していた避難所で、ライフラインは全て途絶し被災者の方々は、ギリギリの状態で生活されておられたところです。当時のマスコミの報道による情報はほんの一辺しかとらえておらず現地に行くと360度の被災状況・臭気・埃は想像を絶するものでした。前任者の災害支援ナースから、①情報収集の継続 ②非難された方の被害状況（心身・物）の確認 ③施設管理者への緊急連絡や避難所での活動スケジュールのオリエンテーションを受け活動を開始しました。昼間の時間帯には働き手となる男女は復旧・復興のために避難所にほとんどいません。従っ

て体力的に労働出来ない高齢の方々を中心とした健康状態のチェックと話し相手が主でした。話をする時は被災者のつらい気持ちを傾聴し共感して安心感を与える様努め、安易に「頑張ってください」とか、「お気持ちはわかります」というような同情的な言葉は慎みました。



子どもたちの思い出

施設内は部屋を閉め切り暖房のため室内が乾燥していました。その他の要因も加わり上気道炎の罹患者が多くいました。限られた避難所の空間では運動不足も考えられ、DVT対策としていち早く弾力ストッキングが配布され装着されていました。健康チェックでハイリスクの方は巡回診察簡易エコー検査を依頼しました。インシュリン治療患者、透析患者がいることも把握できその対応が出来るようにもなりました。施設内には日赤医療班を中心とする仮設診療所が設置されて、避難所のみならず近隣の被災者も受診出来るようになっていました。毎朝、日赤医療班と災害支援ナースでミーティングを行いました。食事は自衛隊の炊き出しにより体育館で約1500名分確保されて、各人に2食は配

食されるようになっていました。飲料水は全国からの支援でペットボトルの水が確保されていました。トイレが一番大変で、流し水はプールの水を皆で協力してバケツリレーで各階トイレに毎日配置することでトイレの衛生状態は比較的清潔に保たれていました。トイレ後の手洗いの水は確保出来ないでウエルパスを大量に設置し使用した。幸いなことに派遣時には下痢嘔吐症の発生の報告はありませんでした。入浴は震災後ほとんどの方が入浴出来ていなくて、自衛隊と被災者の皆さんで校庭に入浴施設を作っていました。



夜のミーティング・湊小学校本部にて

2泊3日の短い期間でしたが今回の総括として、災害の規模すべてが想定外のことであり現場での臨機応変な対応が求められること、その中にあっても基礎看護学の重要性、理論に基づきアセスメントして実践する事の必要性・重要性が再確認出来ました。今回支援活動にご理解、ご協力して下さいました方々へ感謝申し上げます。

ご来院の皆様へ

新病院建設工事のため、皆様には大変ご迷惑をおかけしております。工事完了を平成24年夏を予定しておりますので、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

病院長



新病院完成予想図